

世界最大の田んぼアート×『劇場版「鬼滅の刃」無限城編』を振り返る

2025年、本市が誇る「世界最大の田んぼアート」は大反響をいただき記録と記憶に残る『最高傑作』となりました。昨年12月に刈り取り作業が終了し、また2026年の新しいテーマに向け準備を進めていきます。



新記録 絵柄制作 部門

- 使用した杭の本数 **1万275本**
- 使用したロープ延長 **約10キロメートル**
- 田植えボランティアの参加人数 **676人**

最高記録を更新しました

新記録 行田タワー大盛況 部門

- 行田タワー（古代蓮会館）入館者数 **4～11月末時点 16万8,618人**
- 来場者の市内回遊により市内の飲食店や商店などの売上増
- 多くのメディアに取り上げられ、SNSでトレンドランキング上位を獲得



5・6月
杭打ち・ロープ引き作業



6月14・15日
田植え



7～11月
にぎわう行田タワー



10月18日
稲刈り体験



刈り取られた田んぼアートのお米は？

背景部分に使用した「彩のかがやき」は田植えの参加者などに配布されます。
絵柄部分に使用した黒や白の稲は飼料とすることで、全ての田んぼアート米は無駄なく活用されます。



▶問い合わせ 田んぼアート米づくり体験事業推進協議会事務局（農政課内）☎580—3013

令和8年

行田市二十歳を祝う会実行委員会 二十歳の抱負

1月11日(日)、産業文化会館ホールで令和8年二十歳を祝う会が開催されます。
ここでは、この式典の企画を行ってきた実行委員長と副実行委員長に二十歳を迎えた心境や抱負などを語ってもらいます。

「未来と生きる」



実行委員長 池崎 蒼空さん(行田中学校出身)

二十歳という人生の大きな節目を迎えるにあたり、これまで私たちを支え、見守ってくださった皆さまに深く感謝申し上げます。

私たちはまだ成長の途中にあり、多くを学び続けなければなりません。しかし同時に、未来を担う世代として、新たな社会をつくる力と責任を持っています。

行田市は、忍城をはじめとする歴史と文化が息づくまちです。先人たちは度重なる困難にも屈せず、誇りを胸に歩みを進めてきました。その精神は、私たちがこれから生きる時代においても、変わらず引き継ぐべき大切な価値であると感じています。

社会が大きく変化する現代において、私たちは思考を止めず、自らの言葉で語り、自らの選択に責任を持つ大人でありたいと考えます。そして、このまちに育てられた者として、地域への関心と誇りを忘れず、それぞれの立場から社会に貢献できる存在となることを誓います。

私たちの未来は、私たち自身の歩みによって形づくられます。次世代を担う社会の一員として、その一歩を力強く踏み出します。

「感謝」



副実行委員長 白根 雛花さん(行田中学校出身)

二十歳という節目を迎え、改めて「感謝」という言葉を心に刻みたいと思います。ここまでの二十年間を振り返ると、当たり前のように思っていた日々の一つひとつが、多くの人の支えによって成り立っていたことに気づかされます。家族、友人、学校や地域でお世話になった方々、その誰が欠けても、今の私はいなかったはずです。

どんな時も見守り、背中を押してくれた家族。挫折した時は優しく寄り添い、挑戦すると決めた時は全力で応援してくれる。そんな家族の支えが、何よりの力でした。また、友人たちの存在も、日々を明るく彩ってくれた大切なものです。笑い合い、悩みを共有し、ときにはぶつかり合いながら共に成長してこられた時間は私の宝物です。

そして、地域の方々や学校の先生方をはじめ、これまで関わってくださった全ての方にも、心から感謝申し上げます。安全を守り、真っ直ぐに生きていく道標を示してくださったおかげで、ここまで成長することができました。

これからは、いただいた優しさや心遣いを周りの人へ返すとともに、他の誰かにも渡していくことのできる大人でありたいと思います。感謝の気持ちを忘れず、自分にできることを丁寧に積み重ね、小さくても確かな形で社会に貢献していけるよう努めます。

二十歳という節目を機に、これまで支えてくださったすべての方々へ、改めて深く感謝申し上げます。

▶問い合わせ 生涯学習課☎556—8319